

伏見天皇本影印

源氏物語

九

古典
文庫

伏見天皇本影印

源氏物語

九

古典
文庫

平成四年十二月二十日印刷発行

非売品

編者 吉田 幸一

九 発行者 吉田 幸一

源氏物語

印刷者 白橋印刷所

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話(三九一〇)二七一七
振替口座東京九・一四五九七番

第九冊 目次

凡例	三
三 柏木	五
三 横笛	一五一
三 鈴虫	二〇七
三 夕霧	二五五
所収本書誌	四七五

凡例

一、本書には、架蔵『源氏物語』五十四帖三十二冊を十四分冊に複製するに当たり、その第九冊として、「柏木・横笛合一帖」、「鈴虫・夕霧合一帖」の二冊を縮小影印して収めた。

一、影印するに当たり、大体次のようにした。

1 原本諸帖には、首尾に白紙（遊紙）の有無の相異がある。首の白紙一丁には、後人による巻名の押紙が有るものは扉の役目をしている。ないものは、白紙が一丁となる。尾の白紙も同様に、有無の別があるが、本書では、首尾の白紙は各一丁以外は省略した。

2 原本の丁付は、各帖の巻ごとに付けたが、合一冊の丁付は、最初の扉または遊紙から付け、表・裏の別はオ・ウとした。

3 諸巻合一帖の冊子には、巻名が替わること、丁付を一才から改めて付けた。

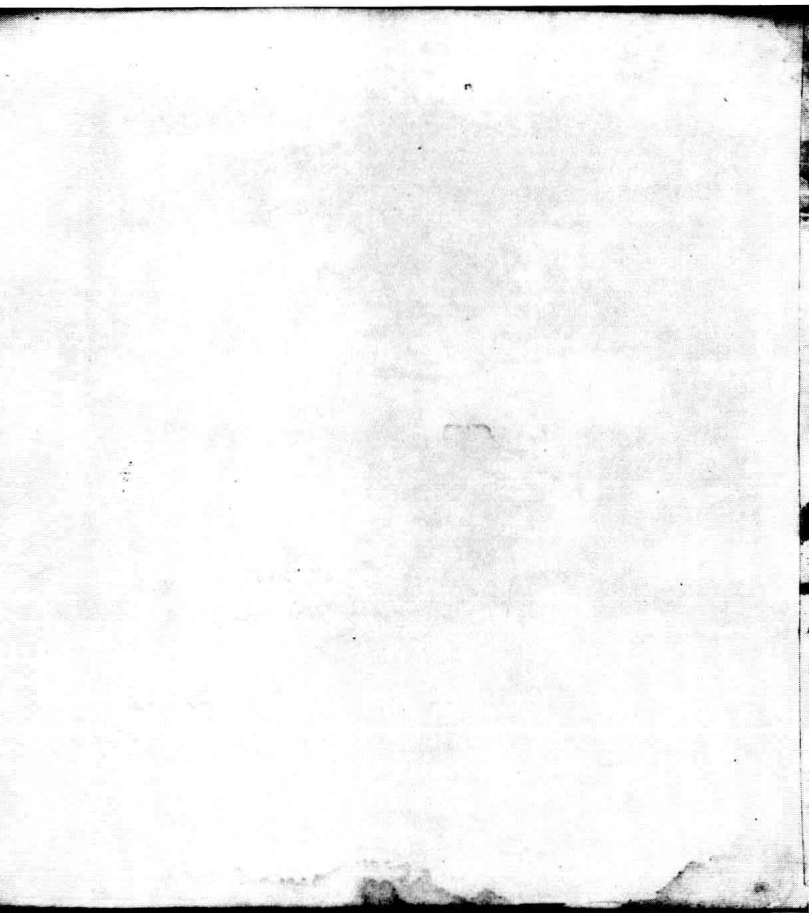
4 五十四帖の卷名は、現今通行の漢字表記とした。（例、蘭・朝がお↓朝顔。
蘭・ふちばかま↓藤袴。）

5 モノクロ影印での原本の汚れは、表紙は文様の剝落、本文は多く火水による損障部分、裏うつりが出ている場合に限るといっても過言ではない。そういう状態を主として知っていただく為に、原色版を別に一括して、十四冊中、比較的頁数の少ない冊子に納れる予定である。

6 書誌は、各冊（十四分冊）ごとに、巻末に記した。



柏木（表紙）



柏木（見返し）

源氏筆五柏木後篇

柏木（一才）

柏木（一ウ）

あきしうまじの君かくのちや
しるもあまのちやういふまゝ
しるもあまのちやういふまゝ
しるもあまのちやういふまゝ
しるもあまのちやういふまゝ
しるもあまのちやういふまゝ
しるもあまのちやういふまゝ
しるもあまのちやういふまゝ
しるもあまのちやういふまゝ
しるもあまのちやういふまゝ

とて人よまぢるもいふもなほしん
たやまむく——うすうす——
てなつたなほむのちや——書
ううふふふふふふふふふふ
ちうううううううううう
とて——あはれきうく——
のちうううう——くちううう
らうううううううううう
うううう——うううううう
とて野うううううう

柏木（二ウ）

みくらつたてちきりく
にふし——
小曲——
やにみくらちきりく
くもにふしねもつちのちきり
かまはれ果てしきりく
もやうにふしちきりく
神仏をいふちきりく

[illegible]

柏木 (三ウ)

あつちのうへへつちのうへへ
あつちのうへへつちのうへへ
あつちのうへへつちのうへへ
あつちのうへへつちのうへへ
あつちのうへへつちのうへへ
あつちのうへへつちのうへへ
あつちのうへへつちのうへへ
あつちのうへへつちのうへへ
あつちのうへへつちのうへへ
あつちのうへへつちのうへへ

一、いふあらすいなり——なほく
福^{ふく}なり——なほくは件^{けん}なりしに
果^はふい——いふなり——礼^{れい}てふ
く——いふなり——いふなり
は、いふなり——いふなり——いふなり
いふなり——いふなり——いふなり
いふなり——いふなり——いふなり
いふなり——いふなり——いふなり
いふなり——いふなり——いふなり
いふなり——いふなり——いふなり

柏木（四ウ）